

今年は東京オリンピックが開催され、引き続きパラリンピックが開かれる年でした。でも、コロナ禍のおかげで1年後に延期されました。もし実施されていれば、きっと長雨の後の暑さの中でアスリートたちによるデッドヒートが繰り広げられて、世界新記録も誕生したのではないかと思えます。しかし、世界新記録はスポーツの世界ばかりではないことがあります。

先日、ある新聞

の長野版に、旧豊

科町出身の飯沼正明飛行士が昭和12(1937)年に日本とイギリスの間を飛行機で往来し、世界新記録を樹立したことが取り上げられていました。彼のことは国内ではかなり知られているけれども、最近、アメリカの Smithsonian 国立航空宇宙博物館の館誌に大きく取り上げられたと報じていました。

## 夢をかなえた新記録

私も多少興味があり、彼のことを題材にした劇を通して中学生に彼の功績を知ってほしいと思い、活動してきました。今回、第2次世界大戦中に敵国であったアメリカで大きく評価されたことは、意義あることだと思います。今でこそコンピューターで制御され、運航される飛行機とは違い、単発機で3日間かけて命がけで

成し遂げた

94時間17分

56秒は、当

時としては

素晴らしい世界新記録だったと思います。その原動力は、彼が小学生のとき、松本飛行場から飛んできた1機の飛行機を見て、飛行士になるために猛勉強、努力して、夢をかなえた結果でもあると思っています。

(安曇野市穂高、荻原義重、76歳)

# 口 差 点

こうさてん